号外

赤穂民報

赤穂民報社
赤穂市加里屋５８－１８
ＴＥＬ　４３－１８８６
ＦＡＸ　４６－２６２６
編集発行人　広島秀紀

明石氏が初当選

三つどもえ激戦制す

任期満了に伴い、無所属の新人三氏が争った赤穂市長選は十八日に投開票があり、元赤穂市副市長の明石元秀氏（六四）が元兵庫県職員の牟礼正稔氏（六〇）、元会社経営の矢野英樹氏（四四）との激戦を制し、初当選した。

三期務めた現職・豆田正明市長（七〇）が今期限りの退任を表明し、八年ぶりの選挙戦。人口減対策を軸にした施策を主な争点とし、立候補者の経歴や実績なども有権者の関心を集めた。

明石氏は市総務課長、市教委教育次長、安全管理監などを経て副市長を務めた四十一年余りに及ぶ行政経験を前面に押し出し、「政策面では他候補に負けない。バランスのとれた市政をスピード感をもって進める」と強調。▽全校区六年生までアフタースクール拡充▽第三子以降の特別支援制度の創設―など子育て支援策をはじめ、▽市民病院第二期構想の推進▽高齢者や障がい者の活躍支援▽六次産業化の取組強化―などを公約に盛り込み、「約束したことは実行する」とアピール。年代や支持政党を問わずまんべんなく支持を集め、トップの九〇六一票を獲得した。

「経験と実績を生かして市民に恩返ししたい」と昨年九月、副市長を辞職。候補者三人の中で最後に立候補を表明した。懸念された出遅れを市議九人の応援や連合の推薦を取り付けるなど組織戦で挽回。告示の時点では優位に立ち、追いすがった他候補を振り切った。

牟礼氏は、「残された人生を赤穂のために命をかける」と三十六年間勤務した県を退職して昨年八月に出馬表明。「国、県とのパイプ役を果たす」と訴えた。「少子化対策・元年」のスローガンの下、学校給食費の無料化を公約。市議五人のほか、告示直前に山口壮衆院議員の支援を受けて選挙戦終盤に追い上げたが、わずかに届かなかった。

矢野氏は昨年五月に、「生まれ育った赤穂のために率先して行動する」と名乗りを挙げた。「二十年先まで見据えた市政で人口減の現状を打破する」「民間の視点と発想で経済効果を生み出す」などと主張。地域活性化、雇用創出などを施策の柱とし、商工関係者と若者世代からの支持拡大を図ったが、無党派層を呼び覚ますことが出来なかった。

投票率は六一・〇〇％で平成十九年の前回市長選を九・八七ポイント上回った。

▲三つどもえの激しい選挙戦を制し、万歳三唱で初当選を祝う明石元秀氏＝１月１８日午後１０時５０分、加里屋中洲の選挙事務所

赤穂市長選　開票結果【選管確定】

当	明石　元秀	（無新）	９，０６１
	牟礼　正稔	（無新）	８，８５８
	矢野　英樹	（無新）	６，５７９

▽当日有権者数／40,501（男 19,238、女 21,263）
▽有効投票数／24,498　▽無効 204
▽不受理・持ち帰り 2　▽投票率／61.00%